

## 和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ 第7回（8月25日）開催記録

第7回目の「和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ」が、8月25日（水）午後6時30分より、和歌山市役所14階大会議室で開催されました。

今回のワーキングでは、引き続き前回の具体的事業案の検討を行うとともに、これまで出てきた事業案から、「5年後の将来像」について話し合いました。

### グループ討議(ワーキング6)

前回までのワーキングでは、「自分たち・TMO・行政」のそれぞれが、中心市街地活性化のために何ができるかという視点で、具体的事業案の検討が行われました。

今回は、前回の続きを行うとともに、「自分たちが望む5年後の中心市街地像」について、今まで出てきた事業案を基に各グループごとに討議し、次のような「将来像」が導き出されました。

#### Aグループ(個店の魅力で人を惹きつけるまち)

- ・それぞれの店が店ごとの「魅力」を持つ。
  - ・各店主が「魅力」を付けるための努力を、自らの意思で継続している。
- ※「魅力」…きめこまやかなサービス、店のもつムード・雰囲気、店主の人柄、独自の仕入れルート、お客さんへのアドバイス、「売る店」ではなく「買ってもらえる店」⇒+αの何か！

#### Bグループ(お気に入りの風景やスポットのあるまち)

『ふうけい.com』(テーマ別マップの作成、街並み点検隊、フォトコンテストをWEB上で展開)とハード整備事業を組み合わせ、まちに「風景」・「ポリシー」・「プロデューサー」・「メンテナンス」があり、市民が愛着・関心を持てるまちに。

#### Cグループ(長い時間ゆっくり過ごせるまち)

『青空ギャラリー』『滞留環境整備』『歩行環境整備』を段階的に行い、  
市営駐車場から、公園前のバス停から、安全な歩道を歩いて、家族みんなでぶらくり丁へ  
⇒家族の展示作品をみて、仲間の作品をみて、仲間と一緒にコミュニケーション  
⇒オープンカフェ、レストランでひと休み  
⇒買い物をして帰宅する。  
といった風景のあるまち。

#### Dグループ(高齢になっても生き生きと暮らせるまち)

『タウンモビリティ』(電動スクーター)のあるまち  
⇒高齢者が元気を取り戻す、他世代との交流が進む、まち中に会話や笑顔が増える、子どもから高齢者まで集まって話をしている、高齢者の車椅子を若者や子どもが押している…といった風景があるまち。

各グループの検討結果の詳細は次のとおりです。

## Aグループ

### 「個店の魅力で人を惹きつけるまち」賑わい性創出ワーキンググループ

今回の議題	「5年後の将来像」	ファシリテータ 氏 名	川崎 昌和
-------	-----------	----------------	-------

(検討結果)

今回は、今まで考えてきた「個店の魅力で賑わいを創出するための4つのアクションプログラム」を踏まえながら、5年後の中心市街地将来像について、「個店」に絞った形でイメージを話し合いました。

やはり、5年後の各店主が、それぞれの店なりの「こだわり」を追求し続けていることが大切であるとの意見が多く出されました。単に商品を置いて買ってもらおうというスタイルから、「店の魅力」で集客力を付けるスタイルへ変わっていくことが求められているようです。

和歌山市中心市街地活性化基本計画(改訂版)策定のための市民ワークショップ Aグループ 「自分たちの望む5年後の中心市街地像」 2004/8/25

**5年後の中心市街地の姿 = 「個店の魅力が人を惹きつけている姿」とは？**

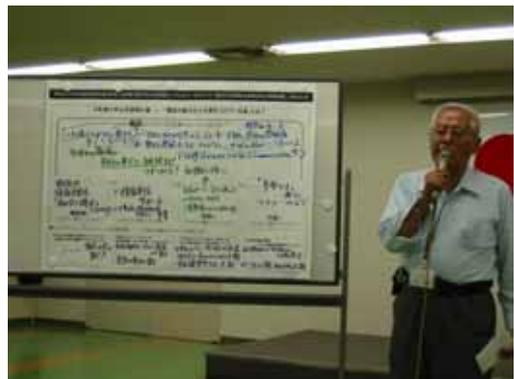
**個店**がどのような状態になっているのか？

- それぞれの店が、「その店にしかない『魅力』」を持っている状態  
『魅力』 …きめこまやかなサービス、店の持つムード・雰囲気、店主の人柄、独自の仕入れルート、お客さんへのアドバイス、「売る店」ではなく「買ってもらえる店」 ⇒『+αの何か』
- 各店主が『魅力』を付けるための努力を、自らの意志で継続している状態。  
⇒「突き詰める」「知識を持つ」

<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強会</li> <li>●情報交換会</li> <li>⇒「高め合う機会」</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>商店街が</b> どのように関わっているか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報発信のサポート</li> <li>●不動産プロデュース事業</li> <li>⇒テナントミックス等</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>TMOが</b> どのように関わっているか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●店主の方針や考え方が消費者の志向に沿っているかをチェック</li> <li>⇒「友の会」等</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>市民が</b> どのように関わっているか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「歩楽利丁」通りの整備???</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>行政が</b> どのように関わっているか？</p>
--	---	--	---

●4つのアクション・プランについての評価指標は？（5年後の効果をどのように把握するか）

<p>①みんなが共感できるまちづくりのテーマの設定と遵守を継続していくプロジェクト</p> <p>指標化は難しい(定性的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンセプトに共感し、活動している有志の会への参加人数 など</li> </ul>	<p>②個店カアップ・プロジェクト(逸品倶楽部、街の専門家、ぶらくり友の会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブランドとして認知された店(名)の数</li> <li>●客数・売り上げ増加量</li> </ul>	<p>③TMOネットワーク拡大・プロジェクト(実行委員会等による市民参加、イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ぶらに35歳以下の社長?</li> <li>●TMOの活動に「リビート」で参加してくれる人々の数</li> <li>●市民提案型イベントの実施数</li> </ul>	<p>④空き店舗対策等 まちの新陳代謝促進プロジェクト</p> <p>長期展望を踏まえた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクトチームの活動度合い</li> <li>●埋まった空き店舗数</li> <li>●テナント等が入替わった数</li> </ul>
--	---	---	--



**Bグループ**  
**「お気に入りの風景やスポットのあるまち」 界限性創出ワーキンググループ**

今回の議題	「5年後の将来像」	ファシリテータ 氏名	西川 昇
-------	-----------	---------------	------

(検討結果)

前回のワークショップで決まった「ふうけい.com」のコンテンツを具体化するとともに、その事業効果を考えていきました。時間の都合上、すべてのコンテンツについて考える時間はありませんでしたが、メンバー間での「ふうけい.com」のイメージをさらに具体化していく討議を進めました。具体化する上での留意点として、各コンテンツを実際に行う場合の重要なポイントや事業の効果を考えるとともに数値目標が設定できるものについては考えていきました。

**ふうけい.com 各コンテンツ概要**

コンテンツ名	ポイント
テーマ別マップ作成	作った地図を共有する方法→WEB と紙媒体 <b>地図を作っていく過程が重要</b>
街並み点検隊	ハード整備と連携 <b>行政だけに要望を出すのではなくTMO、商店主などと連携する</b>
好きな場所のアンケートをとる	おもしろいアンケートにする→ゲーム性を持たせる ①トーナメント制②テーマ別 MAP 中でのランキング→ジャンルが違うのがメリット③年齢別
フォトコンテスト	中心市街地にエリアを限定した写真コンテスト ① 市民が参加しやすい仕組み(写メールの活用など) ② 全国から写真家を募集し(有名な写真家が審査員をする) <b>(外から)街がどう見えているのか?を和歌山の人々が改めて見る</b>
「自分のまちを紹介しよう」授業(1~3年生)	夏休みぶらくり丁で自由研究をしませんか? →先生がチョイスする一つに
「自分のまちの資料をつくろう」授業(4~6年生)	教育学部生などと連携 高学年の作ったものを低学年が利用

また、5年後の中心市街地像については、ワークショップの最初の段階で挙げた「お気に入りの風景・スポットを持つにあたっての4つの課題」(まちを風景としてとらえていない、まちのメンテナンスができていない、まちのポリシーがない、まちのプロデューサーがない)は、「ふうけい.com」のコンテンツと一連の「ハード整備事業」をすることで解決されることをメンバー間で確認しました。

次回は、いよいよ最終回なので、ファシリテータが、報告書の骨子に沿ってまとめ案を作ってきて、それを基にして、最後の討議を進めていきたいと考えています。



## Cグループ

### 「長い時間ゆっくり過ごせるまち」回遊性・滞留性創出ワーキンググループ

今回の議題	「5年後の将来像」	ファシリテータ 氏名	片桐 裕明
-------	-----------	---------------	-------

(検討結果)

いままでの提案をまとめた5年後の将来像(イメージ図)を提示して、ワークショップに入りました。また今回のワークショップを行うにあたり、事前にその趣旨をメンバーにお伝えしておりましたところ、欠席メンバーからも意見をメールで事前にいただいたこともあり、「人を集める～再び来て貰う～しょっちゅう来て貰うには？」との考えから、かなり具体的なアクションプランのイメージを共有できました。

#### アクションプラン

事業名	場所	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
青空ギャラリー整備事業 (ぶらくり丁)	道路	—————▶ 1STステージ					
滞留環境整備事業 (ぶらくり丁)	道路、民有地	—————▶ 2NDステージ					
歩行環境整備事業 (ぶらくり丁へのアクセス)	道路	—————▶ 3RDステージ					

⇒ [アクションプランを反映した5年後の将来像\(イメージ図\)](#)

「市営駐車場から、公園前のバス停から、安全な歩道を歩いて、家族みんなで、ぶらくり丁へ」

「家族の展示作品をみて、仲間の作品をみて、仲間と一緒にコミュニケーション」

「オープンカフェ、レストランでひと休み」

「買い物をして帰宅する」そんな風景(長い時間ゆっくり過ごせる街)をイメージしました。

また青空ギャラリー事業については下記のような役割分担が確認されました。

市民： 資金提供(募金、寄付、協賛、出資)

事業参加(TMOに実行部隊としてボランティア参加)

TMO：事業主体

実行部隊はボランティアスタッフ

行政： サークル等へ呼びかけ協力

道路使用の規制緩和

商業活性化支援補助金等の支援(可能性があれば)

継続的な事業として定着させる企画と実行がポイント。そうすれば民間、行政もその役割を果たしてくれるはず。まず第1歩を踏み出すことを確認した。



## Dグループ

### 「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」暮らし空間創出ワーキンググループ

今回の議題	「5年後の将来像」	ファシリテータ 氏名	鳥淵 朋子
-------	-----------	---------------	-------

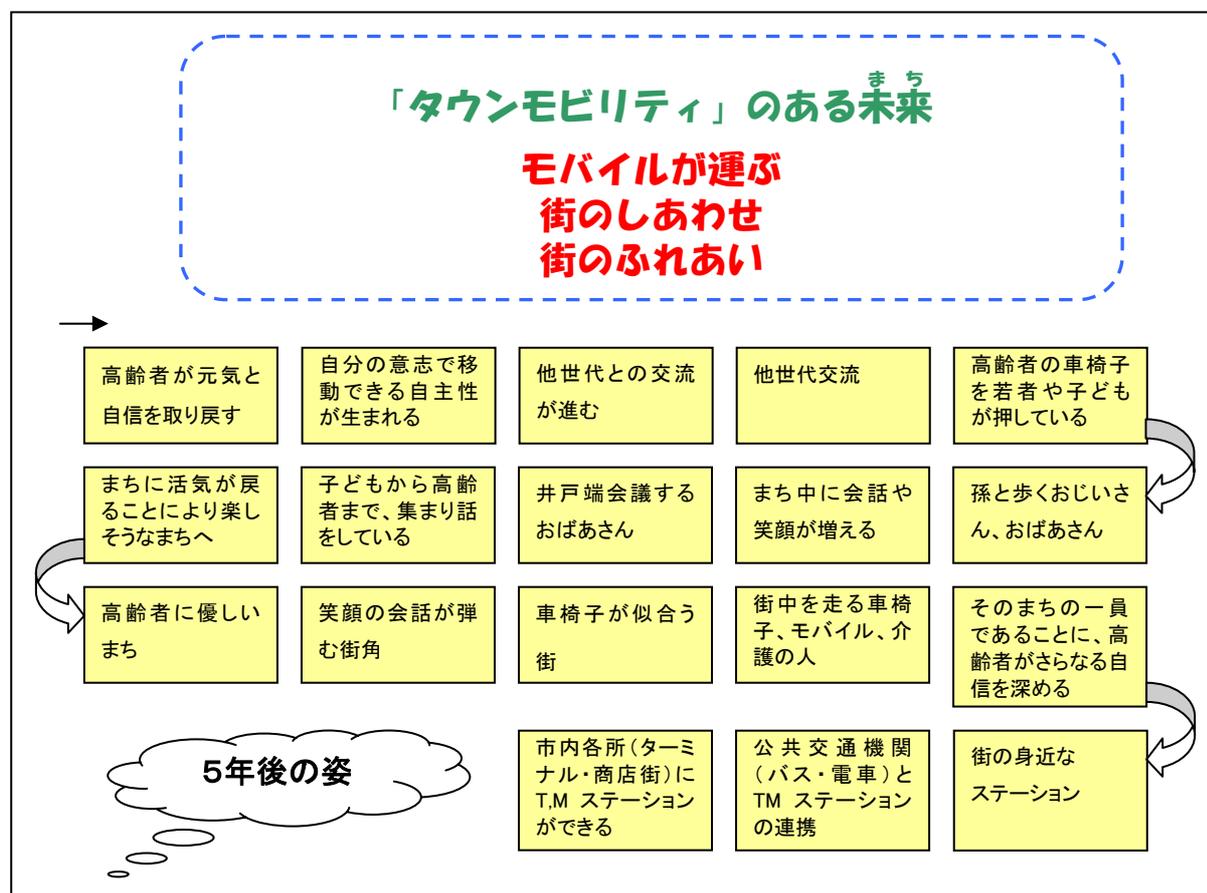
(検討結果)

今回のワークショップでは、第1に事業案の優先順位の決定、第2にキャッチフレーズの決定をすることを目的としました。そして、キャッチフレーズを冠にした上で、5年後の将来像のイメージをみなさんに話し合うことで合意形成をはかりました。

事業案の優先順位、キャッチフレーズについては宿題として考えてきていただきましたので、少し強引な形になりましたが時間内に目標の到達点までには、たどりつきました。

次回はファシリテーターから計画案の素案（たたき台）を提示し、全員で提言内容を詰めていきます。

#### 【5年後の将来像ステージ:キャッチフレーズと将来イメージとりまとめ】



## **次回の予定**

次回（9月8日予定）のワークショップでは、今回までのワーキングで出てきた事業案などをまとめたものを基に、各グループで更に精査し、基本計画素案への提案として完成させていきます。